

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和6年度第1回加東市文化財保護審議会
開催日時	令和6年8月27日（土）午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	加東市明治館（加東市社777番地）
出席及び欠席委員の氏名 （出席委員4人）瀧原 務、神崎壽福、湖内克利、中西正和	
説明のため出席した者の職氏名 無し	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 加東市教育委員会 生涯学習課（課長）岸本孝司、副課長）大西直美、係長）岸本素直、主査）藤原光平	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 I 会議の内容 1 開会 2 あいさつ 3 会議内容 （1）報告事項 ①令和5年度加東市文化財事業の報告について ②令和6年度加東市文化財事業について ③その他 （2）現地視察 ・佐保神社本殿 II 会議の経過 別紙のとおり	

(別紙)

令和6年度第1回加東市文化財保護審議会 会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
事務局	1 開会
会長	2 会長挨拶
事務局	3 会議内容 (1) 報告事項 ①令和5年度加東市文化財事業の報告について ＜質疑・意見等＞
委員	令和5年度に実施した各補助事業の具体的な事業費について説明してほしい。
事務局	(各事業費を提示。)
委員	朝光寺の本尊公開の申し込み方法をどのようにしたのかと各参加者がどこから来ているのか把握しているのか。
事務局	特に事前申込は受け付けず当日参加で開催した。参加者の居住地については全て把握することはしていないが、個別でお聞きした限りでは、県外等の遠方から来られている方もかなり多かった。 ②令和6年度加東市文化財事業について ＜質疑・意見等＞
委員	滝野中学校隣接地での発掘調査で見つかった土器の出土状況はどのようなものだったのか。
事務局	遺構に伴うものとしては大形の溝状遺構内の最下層から縄文土器が出土しており、それより上層の粘質土層から木製品などと一緒に平安時代頃までの土器が出土している。
委員	その溝状遺構は当時の人々が用水路として使用していたという理解でよいのか。
事務局	灌漑用水路として整備されたというよりは、元々自然の河道として存在していたものを用水路として利用し様々な生活用品が投棄されたと判断している。
委員	この遺跡は古代滝野庄の範囲内と考えてよいのか
事務局	滝野庄の中心地と考えている上滝野・宮ノ前遺跡が所在する春日神社周

事務局	辺からは数キロ圏内に存在するため、そのように捉えて問題ないと判断している。
委員	遺物がより高位の段丘面に存在した生活空間から河道に入り込んだ可能性はあるのか。
事務局	令和５年度に行った別の試掘調査の成果によって、隣接する高位の段丘面からも遺構が検出されていることから、ご指摘の想定は十分ありうると考えている。
委員	佐保神社本殿の改修工事に関連して、飾り彫刻の彫師の情報が調査によって判明してきたと聞いている。教育委員会としてもそうした情報を踏まえて本殿建物の彫刻類の記録をとっておいた方がよいと考える。
事務局	ご指摘の通り、県内で神社彫刻を専門に扱っている研究者の方が調査に入られて、地元の神田大工だけでなく、大坂の彫師である草花平四郎という人物の作品が採用されていることが判明した。こうした成果を今後普及啓発していくためにも神社の様々な要素の記録作業を今後進めていきたいと考えている。
委員	指定文化財の紹介看板の改修をするとのことだったが、来年度以降も順次継続して実施していく予定なのか。
事務局	来年度以降の予定については現在ところ考えていないが、定期的に見回りを実施する中で、劣化が進行している物件があれば順次改修を行っていきたいと考えている。近隣にお住いの委員の方々にも是非気になった点があれば指摘をいただきたい。
委員	道標の再建工事の工法はどのように考えているのか。
事務局	道標をそのままの状態ですぐえ直してもまた転倒してしまうので、地下にきちんと基礎を築いてそれと道標本体を固定する形での工法を考えている。
委員	同じ場所には再建が困難であるとのことだったが、動かすのであればもとあった場所の記録もきちんと残しておいてほしい。
事務局	ご指摘の通り、きちんと記録作業を行ったうえで再建を実施する。
委員	最後に要望として、これまでも何度か言っていることだが、これだけの文化財関連事業を現状１人の専門職員のみで実施しているのは非常に負担が大きいと考える。周辺市町でも複数の専門職員を配置しているところが増えているので、加東市でもまずはもう１人専門職員を採用することを検討していただきたい。 ③その他

事務局	次期の審議委員改選について説明を行った。 ＜異議なし＞ この後、現地視察を行うので、会場での内容は、これを以て終了する。 (2) 現地視察 佐保神社本殿 以 上
-----	--